

隅田川・東京港橋梁見学クルーズを開催

当会では、例年一般の方向けに土木施設や技術の重要性を感じていただくための見学会を実施しています。今年度は、8月5日に「隅田川・東京港橋梁見学クルーズ」を開催しました。



勝鬨橋と勝どきのマンション群



クルーズ航路

天候は曇り気温26度、景色を楽しむには日差しと青空が足りませんが、非常にしのぎやすい日でした。コロナ禍、こうしたイベントが実施できない状況が続いていた中ですが、大学生を中心に12名の方に申し込みをいただき、定期便に乗船し実施しました。

吾妻橋のもと水上バス乗船場からエメラルダス号に乗船。同船は漫画家 松本零士氏に依頼し、子供たちが乗ってみたい船としてデザインされたもので、100人の定員に対して70人ほど乗せているとのこと。乗船前、浅草の街中で浴衣姿の海外の女性数人とすれ違いましたが、同じ船にその人たちが私服で乗っていました。それ以外に

も海外からの観光客が多く見受けられ、観光客が回復しているのを感じられました。

建築家の阿部彰氏を講師として乗船前や船内で「今回のクルーズでは、浅草の吾妻橋からお台場レインボーブリッジまで15の橋梁（1つは鉄道橋）を通過する。隅田川の橋梁群には様々な様式の橋がある。関東大震災の後、震災復興橋梁として、燃えない橋、街づくりの一環で、一律ではない様々なデザインで造られたからだ。橋梁は建造された年代により、組み立て方法が違っている。古い順にリベット接合、ボルト接合、溶接、一体成型設置といったもの。古くは人の手で持ち運べるサイズの部材をリベットで接合して組み立てたが、最新の一体成型設置型では、2014年5月8日に築地大橋の中央径間2600トンがクレーン台船で運ばれ、1日で設置されている。橋を通過するときよく観察すれば、その違いによりおよその年代が判断できる。橋梁群のうち、清洲橋、永代橋、勝鬨橋の3橋は国の重要文化財となっている等」の解説を聞き、隅田川を下りました。



エメラルダス号



船内での様子



オリンピック選手村

参加した学生の中には橋梁を専門としている学生も数名参加していてこんなコメントをいただきました。「授業等でも、東京にいるなら隅田川橋梁群を見ておくべきと言われていたのですが、なかなか行けず、今回やっと行くことができ感激しております」。

終了後、学生4名と阿部講師そして事務局を含めて到着地のお台場海浜公園内の喫茶店で懇談の機会を得ました。これから社会に出ようとする学生と橋や東京の街の発展など多岐にわたり会話をする機会を得ることができました。